

★ 地球温暖化を防止しよう ★

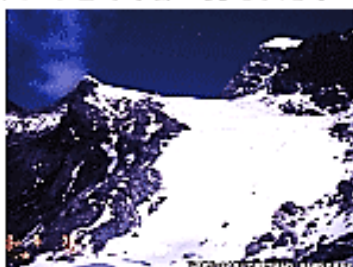
最近地球温暖化問題が新聞やテレビでよく報道されていますが、日本では今年の冬は寒くて、新潟方面では何十年ぶりの大雪が降り、温暖化ってほんとなの？と思えるようでした。でも気象庁の平井信行さんの講演によると、今年の大雪は日本海の水温が高く、水蒸気の発生がとても多いところに、北極の偏西風が蛇行して日本上空に下がって来た為だ、とのことでした。そして、オーストラリアはとてつもない暑い夏だったそうです。

昨年2月に京都議定書が発効し、日本は1990年を基準に6%二酸化炭素の発生を削減する事を世界に約束しました。しかしながら、2003年時点で逆に8%増えていきますから、後7年以内に14%以上削減しなければなりません。その増加の原因は、産業界は殆ど増えていませんが、運輸部門が20%、オフィス部門が36%、家庭部門が31%それぞれ増加しています。

私たち秋山市民としては、家庭部門の増加を減らして行く義務があります。では、どうしたら減らせるのでしょうか。それは結局、「なんとなく増えてしまった」日常のライフスタイルを変えてゆきしかありません。例えば、冷房は28℃より高く、暖房は20℃より低くする、近距

離の買い物などは歩きか自転車を使う、遠距離はなるべく公共交通機関を使う、車のアイドリングを止める、人が居ない部屋のテレビや照明は消す、テレビ、パソコンなど、家電製品の待機電力を減らすためにコンセントを抜く、シャワーや歯磨きの時に水を流し放しにしない、洗濯は風呂の水を使う、レジ袋を貰うのを止めて、買い物袋を持参する、ごみになる過剰包装の買い物をやめる、お茶などはペットボトル入りをやめて茶葉を使う、紙は徹底的にリサイクルに回してごみに出さない。等々いろいろ工夫する余地がたくさんあります。これらをきちんと実行すれば財布にもやさしくなること請け合いです。

デンマークでは、持続可能な自然エネルギー利用と省エネを進め、1990年を基準にして、2012年には二酸化炭素の排出量を21%以上減らすことは可能だ、と首肯しており、EU諸国でもそれに近く減らすと言っています。しかもポスト京都議定書として、その後は60%削減を計画しています。その事は、近い将来石油が大暴騰したときにも対応できるように準備している事になります。日本では殆どその対応をしていません。もう余り時間が無いのです。(土瀬 昭)

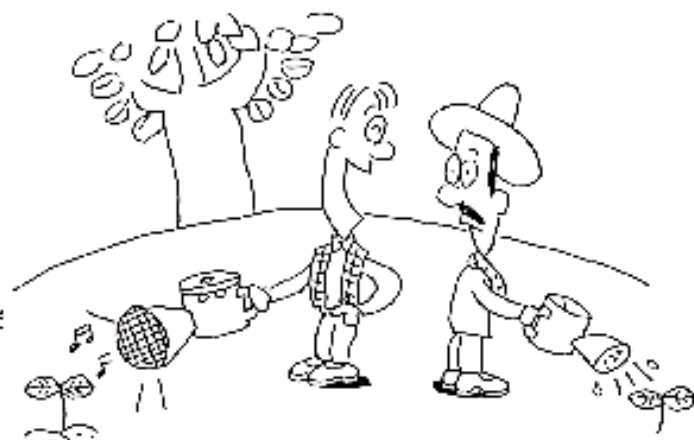


谷を覆う氷河(1978年)と温暖化により後退する氷河(1998年)＝ヒマフヤ
写真提供：名古屋大学環境学研究所 雪氷圏変動研究室

砂川しげひさ

環境マンガ

モーツァルトを聴かせてるんだ



堀兼・上赤坂の森の関東財務局管理地問題について

リポートNo.9で、堀兼・上赤坂の森に国有地看板が立てられ、このままではいずれ売却され緑の喪失につながるだろうとの報告、また同時配布した「緊急アピール!! 相続税対策で危機迫る「堀兼・上赤坂の森」」では関東財務局、埼玉県および狭山市に保全の要請書を出したことを報告しました。その後、狭山市および埼玉県が、財務局に対し、当該国有地を公売対象から外して欲しい旨要請書を出したとの連絡を受けています。

さらに、現在さやまネットは、国有地購入資金の手当ての為、寄付金集めの可能性や具体的問題点について狭山市と相談している段階であることをお知らせします。

さやま環境市民ネットワーク 平成17年度事業報告

本年度は、昨年度の成果と反省を込めて当会を着実に発展させる年にしたい、と取り組んできました。共通事業は、「環境基本計画」の5つの重点プロジェクトの内、環境情報交流を主に実施し、他の4つは、緑、川、ごみ減量、温暖化対策の各分科会の下で進めてまいりました。以下にその主なものを報告します。

1. 共通事業

①会報を年4回、各7,000部(内、自治会回覧分約6,000部)発行し、ホームページは環境政策課から独立して独自に運営するようにしました。

②環境ウォーク2005を11月に実施。

晴天に恵まれ、老若男女250名が、秋の一日を楽しみました。



③行政と連携して、緑のトラスト8号地の県民投票を募り、45,000票余りを集めました。残念ながら2位に留まりました。

④その他、環境シンポジウム「ごみゼロの狭山をめざして」の実施、愛・地球博ツアーの開催、環境教育サポート事業、環境サロン事業、My得意技の登録、リサイクルプラザ棟検討会への参加、等を行ないました。

2. 分科会事業

各分科会では、中央公民館と共催による環境講座の開催、見学会の開催、市への提言、学校の環境教育サポート、パネル展示等、独自の活動を活発に、推進しました。

総会のご案内

第3回定期総会を次のとおり行ないますので、多数お出かけください。
当日新規入会も受け付けます。

日時：平成18年5月13日(土)
13時30分～16時 予定
場所：狭山市役所6階会議室

各分科会の活動報告

リサイクルプラザ「プラザ棟検討委員会」開催

奥宮第1環境センターの跡地に「リサイクルプラザ」が建設され、平成19年6月から「工場棟」(燃やさないごみ・粗大ごみの処理とビン・缶の選別処理を行う)が稼働します。これに関連してリサイクルに関する啓発や教育等を行う「プラザ棟」が建設されます。

プラザ棟建設に関して市民の意見を聞く第1回目の会合が2月13日にあり、市の建設担当者、コンサルタント及び、さやま環境市民ネットワークから5名が参加し話し合いました。



市はプラザ棟1,500㎡3階建てのレイアウトスケッチを提示し、完成後の運営などで市民の協力を期待しているとのことでした。

さやま環境市民ネットワーク側から次のような提案をしました。

- ごみに直接関係することだけでなく資源循環型社会を目指す広い視野に立つこと
- 建物内部だけでなく周辺も視野に入れ、人間川や林とのつながりを考えること
- 子どもも大人も環境・ゴミについて楽しみながら学び、活動ができること
- アクセスの不便をカバーするため、社会的、教育的に魅力のある施設にすること
- 生ごみ資源化と農業とのつながりを考えること・・・など

皆さんも関心を持っているアイデアをゴミ減量分科会へお寄せください。(吉村七郎)

生きとし生けるものと共にありたい

ここ狭山市に転居してきて13年が経ちます。ゆったりと流れる人間川、そこかしこに散在する雑木林…。都会育ちの私には、この狭山の豊かな自然に今も魅せられています。

私は運転免許をもっていなかったため、子どもが小さい頃は人曾のアスレチックや日高、仏子の公園など、どこでもママチャリで出かけていました。(おかげで脚の太さは1.5倍と膨張してしまいました…)

ただ、このたった13年の間に様相ががらっと変わってしまった所もあり、ひじょうに残念でなりません。広瀬橋付近の川面…。かつては水鳥のカイツブリがたくさん泳いでいましたが、人間川小学校の造成等で川の流れが浅くなってからは、あまり見受けられなくなりました。カイツブリは潜水して餌を探るため、そこに棲めなくなったのでしょうか。

また、私達親子のお気楽散歩コースでもあった狭山市駅東側一帯…。その辺りの畑や雑木林はだんだん宅地化されていき、武蔵野の懐かしい面影が失われていきました。

ところで、都会のコンクリートに囲まれ、自然と無縁に育ってきた私は、狭山に来て「緑」の果たす大事な働きを一つ発見しました。転居当時住んでいたマンション裏に小さな木立があり、

その向こうにテニスコートがありました。しかし、その木々が丸裸にされて駐車場になってからは、テニスボールを打つ音、人々の話し声が丸聞こえになり、騒音問題にさえなってしまったのです。緑は遮蔽や遮音という効果も与えてくれていたんだということも、恥ずかしながら私は初めて知ったのです。

ちなみに、そのマンション裏の木立にはオナガやシジュウカラが舞い、脊にはメジロやウグイスが来てくれて、私達の目と耳を楽しませてくれました。こうしたちょっとした木立にも生き物の息吹がいきいきと感じられて、緑の懐の深さをしみじみ実感しました。

生きとし生けるものと共にありたい…。それが私の願いであり、環境問題を見つめる一つの視点でもあります。(山口千尋)



野鳥にも棲みやすい狭山でありますように

きらめく入間川を後の世代にも

埼玉県の西部地区は、戦後の日本の発展を支えてきました。1960年代から70年代にかけ、狭山市を含むこの地域は産業の拠点として、また首都圏で働く多くの人々の生活の拠点として成長し発展してきました。

さらに狭山市について付け加えれば、市内に旧ジョンソン基地(アメリカ空軍駐留)があり、まさしく国際社会の中での日本の戦後を目の当たりにしていたのです。

当時の入間川は、産業排水や生活排水からの垂れ流しの排水で泡が立ち、少々ドブの臭いがしていたことを憶えています。

そのころに少年時代を迎えていた小学生は、戦後と共に汚れていた川であってもそれを心のふるさととし、水面下で脈々と生き続ける魚たちを友として、幼なじみと共に夕暮れまで釣り竿を握っていたものでした。今日の入間川



入間川には多くの堰があります。

は水自体の汚れは環境基準の制定や公共下水道などの普及によって年々きれいさを取り戻してきています。

しかし一方で、外来害魚の違法放流と繁殖、大量のカワウの飛来によって、その生態系が危ぶまれています。さらには、上流部の乱開発、水源地林の荒廃、コンクリート護岸の建設など本来の自然の姿を失ってしまいかねません。川をめぐるそんな時代に生きる私たちは、ふるさとを守り育てるために、流域全体で取り組んで行くべき時と考えています。国でもなく、県や市町村でもなく、流域で生活する私たち自身の手で川の未来を考えたい。川の本来持っている豊かな自然と恩恵を取り戻していきたいと思えます。

社会全体も地球環境保護と心のゆとりの時代変わりつつあります。私たちと子どもたちにとっても、ふるさとの自然はとても大切な存在なのではないでしょうか。(伊藤あきら)



「自然生態系の保護育成」

エコ(Eco)という言葉が、人間社会に溶れて久しい。エコロジー(生態学)もエコノミー(経済学)も、エコという「生活の向上」という共通語源に由来する学問である。共に地球環境の中で、後者は人間中心の都合で自然環境に大きな被害を与え続けている。具体的には、

生物群集と無機的環境との自然のまとまり＝生態系(エコシステム)に大きなストレスを加え、人間の存在を支える生物的自然を破壊しつつある。

さて、身近な問題から地球自然の環境問題へ視界を広げるとき、創立3年目のさやま環境市民ネットワークの役割が期待されている。「堀兼・上赤坂の森」など農家周辺に広がる丘陵や平地のコナラ、クスギ中心の雑木林、アカマツ林などの二次林の保護育成は、里山の貴重な財産としても、温暖化防止などの環境機能が期待される。

さらに「よみがえれ入間川や不老川」の水源や流域のふるさと森づくりを復活し、景観保存や生物の多様性と生命維持は急務であろう。(塩田正行)



さいたま環境賞 県民大賞 受賞

3月22日、当会員の「平野の森」こどもエコクラブが、このたび「第7回さいたま環境賞 県民大賞」を受賞し表彰されました。日頃から森の保全に取り組んでいる子どもたちに拍手喝采。

イベント情報

さやま環境市民ネットワーク 総会のご案内

第3回定期総会を次のとおり行ないますので、多数お出かけください。当日新規入会も受け付けます。

- 日時＝平成18年5月13日(土) 13:30～16:00 予定
- 場所＝狭山市役所 6 階会議室

森と川の土曜校 野あそびパーク

幼稚園や保育園がお休みの上曜日を、気持ちのいい外で親子いっしょに遊びませんか。

●親子での活動予定

- ・第1回 4月23日(日)
- ・第2回 5月6日(土)
- ・第3回 5月21日(日)
- ・第4回 6月3日(土)
- ・第5回 6月18日(日)

●対象者＝3～5歳児とその保護者

- 実施場所＝狭山市稲荷山公園(雨天決行)
- 参加費＝1家族1回1,300円 1家族5回通し5,000円
- 集合場所＝狭山市博物館玄関前
- 定員＝申し込み先着30名
- 時間＝10:00～12:00 (受付開始 9:30)
- 持ち物・服装＝タオル、水筒、長袖、長ズボン、カップ(雨天時)
- 申し込み・問い合わせ＝NPOけやの森自然塾 電話・Fax. 04-2955-2773

主催＝NPOけやの森自然塾

共催＝ラボ国際交流センター

後援＝狭山市 / さやま環境市民ネットワーク 他

プラスチックリサイクル工場見学会

主催＝さやま環境市民ネットワーク ゴミ減量分科会 共催＝狭山市中央公民館

- 場所＝昭和電工(株) 川崎工場
- 日時＝5月24日(水)
- 集合＝狭山市役所 午前8時20分 帰着午後6時予定
- 費用＝500円(バス代他)
- 定員＝40名
- 申し込み＝ゴミ減量分科会 遠藤 Tel. 2958-5280 / 古村 Tel. 2953-2482

会員募集

市内在住・在学・在勤の個人、市内で活動している民間団体や事業者であれば入会する事が出来ます。皆さまのご入会をお待ちしております。

年会費：市民 1,000円 / 市民団体 3,000円 / 事業者 一口 5,000円
平成18年3月20日現在の会員数(総数206会員)＝個人 173名 / 団体 23団体 / 事業者 10事業者

さやま環境市民ネットワーク事務局 (狭山市環境部環境政策課内)

Tel. 04-2953-1111 内線＝3671・3672 Fax. 04-2954-6262
E-mail＝kankyo@city.sayama.saitama.jp
ホームページ＝http://kankyosimin-net.sakura.ne.jp/mysite25/